

第7回 甲府市上下水道事業懇話会 会議録

- 会議の名称：第7回 甲府市上下水道事業懇話会
- 開催日時：平成24年5月8日（火）午後3時30分～午後5時
- 開催場所：甲府市上下水道局 3階大会議室
- 出席委員：込山芳行委員、風間ふたば委員、箕浦一哉委員、
小泉久司委員、齋藤伸右委員

■ 欠席委員：なし

■ 傍聴者数：0名

■ 次第

1. 開会

2. 報告事項

3. 懇話

(1) 甲府市下水道事業の健全経営について

(2) その他

4. 事務連絡

5. 閉会

■ 懇話内容

(1) 甲府市下水道事業の健全経営について

【座長】

それでは懇話に入らせて頂きます。

(1) 「甲府市下水道事業の健全経営について」説明をお願いします。

(担当者からの説明)

【座長】

他方面に渡り資料を整理して頂き、健全経営に必要な基本方針、企業努力、今後の課題というように整理して頂き、一通り形はできあがっていると思います。しかし、個々的には各先生方のご意見を頂きながら、よりよい健全計画案として整理していきたいので、ご意見を頂きたいと思います。よろしくお願い致します。

【委員】

数値を見まして、一番目につくのは有収率の問題であります。42番中42番ということですから最下位ということですが、これだけの数値が開くのは相当の原因があると思います。今後の具体策を幾つか上げていますけれども把握している大きな問題があるのかお伺いしたい。

【担当者】

有収率の問題ですけれど、一番大きく水量も多いのが不明水であります。管路の中に浸透する雨水が原因となっています。規模的に平成20年度より業務委託として調査し、一番多いのはどこか絞込みを致しました。一番多いのは、北部の西田地区で毎年5ha位を管更生、マンホール蓋の交換、浸入水防止対策をしてまいりました。これからも粛々と不明水、浸入水の対策をして行かなければならないと考えています。その他にも誤接続、雨水を下水に入れてしまうことです。合流区域であれば仕方がないのですが、この地域は分流区域ですので、雨水が入ればそのまま大津処理場に流れます。合流区域であれば住吉中継ポンプ場で雨水については吐かせますので、雨水は大津の処理場までは行きません。これら1件1件の誤接続を洗い出しながら、西田・北新地区を給排水課と連携し、特定されれば直していくよう指導しています。以前には管路の中に煙を入れて、樋から煙が出るか出ないかまで調査を実施した経過もあります。所有者の許可等もありますので、今は行っていませんが、このような形の調査も行っていきたいと考えています。その他の原因も幾つかありますが、水道水を使用している家庭は水道メーターで下水道の使用料を徴収していますが、水道料金と下水道使用料が一緒になりますと負担も大きくなります。さまざまな問題も出てきます。また、地下水と併用して使っている家庭では、水道水は台所や飲料水として使用し、トイレや雑排水については地下水を使用している家庭も多くあります。その家庭につきましては、20m³の一律料金を賦課しています。10m³しか使用しない家庭もありますが、40m³以上使用する家庭もあります。これらの排水量は自動的に大津処理場で計測されますので、要因として有収水量/処理水量として計算された数値が低いという結果は出ています。その対処としても、お金が掛る問題ですので地道に対処していくしかないと考えています。

【委員】

問題点は大体絞り込めているようですが、どのように対処をしていくかが問われてくるように思います。また前回も話題にあがりました地下水の問題がかなり影響しているようですので、料金体系も検討していく余地があるように思います。

【座長】

どうもありがとうございました。

【委員】

総務省のデータについてお伺いします。公共下水道における赤い部分が甲府市の評価ということですが、施設の効率性は有収率が低いので、この数値ということですか。また経営の健全性は一般会計からの繰入れもありますが、他の類似都市平均と比較して良いということですか。

【担当者】

このグラフにつきましては、施設の効率性で有収率との比較ですので極端に悪いということですが、他の経営の健全性等については、他の類似都市平均や全国平均より上回っているということになります。

【委員】

特定環境保全公共下水道では、甲府市はグラフ下部の3つのポイントで数値が良いのは、他の類似都市平均が良くないので相対的に甲府市が高く良く見えるのですか。

【担当者】

特に経営の効率性では、汚水処理原価を比較していますので甲府市 157 円、類似都市平均 234 円、全国平均 284 円でありますから、甲府市がかなり良いというグラフになっています。なかなか公共下水道と特定環境保全下水道を比べることは難しく、はっきり区別して処理ができていればよいのですが、総務省が全国の事業体を集計している決算統計書によると、このような状況にあります。

【委員】

五角形グラフのそれぞれの値は、施設の効率性でいえば、有収率だけを見ているということによろしいですか

【担当者】

そうです。

【座長】

他に何かありますか。

【委員】

2点ほどお伺いします。1点目は職員数の適正管理であります。7ページのグラフの平成22年度の集計であります。以前の水道料金審議会の時に平瀬浄水場の運転管理業務を民間委託へ進めていくという説明がありましたが、これには含まれないという理解によろしいですか。また民間委託を行なったことによって、職員数は何人位減となりましたか。

2点目は、資料の最後の部分の今後の課題となっている「未接続の解消」で特に市街化調整区域において供用開始になっている地域でも下水道に切替えない件数がありますが、この部分の対策は努力してやっていくと説明を受けましたが、その後の進捗状況をお伺いしたい。

【担当者】

7ページのグラフの職員数ですが、これはあくまで下水道事業に携わる職員数でありまして、質問の平瀬浄水場の運転管理業務の職員数は水道事業でありまして、この数値には影響はありません。

【担当者】

平瀬浄水場運転管理業務につきましては、今年4月1日より2年間の契約で民間へ業務委託をしました。昨年まで職員10名で業務にあたっていました。現在職員5名で昨年と比較すると5名減となっています。職員については、平日通常業務のみの勤務となっています。土日祝日及び夜間の勤務は民間業務委託となっています。

未接続世帯につきましては、今年3月末現在、3,700世帯程となってい

ます。現在職員 3 名、嘱託 3 名で昨年より各 1 名ずつ計 2 名の増員を図りました。より細やかな対応や訪問を行ないまして、接続率を上げるための努力をしています。今年度の取組みとしては、3,700 世帯の中には接続できない世帯もありますので、再度精査をして実態に沿った取組みをしていきたいと考えています。また、昨年度 450 世帯の接続を行っています。担当職員等の増員も致しましたので、今年度も労を惜しまず粘り強く指導していきたいと考えています。

【座長】

質問も兼ねながらご意見を伺いたいと思います。他に何かありますか。

【委員】

今の質問に関連しまして、職員数についてですが、下水道事業で今までに 53 名減ということですが、年齢構成や技術レベルについてお伺いしたい。

【担当者】

現在の上下水道局職員の平均年齢は 44.14 歳であります。平成 19 年に上下一体化になりましたが、下水道事業の職員は元々甲府市の職員であります。平成 15 年 4 月より水道局独自の職員採用は無く、甲府市の職員として採用され、上下水道局に配属するという形で甲府市職員との人事交流が進んでいます。年齢を見ますと高齢化傾向にありますので、団塊の世代の退職に伴う技術の継承が他市町村でも同じように課題となっています。経営の効率化を進めていくうえで、どうしても職員数減が重要になってまいりますが、削減の限界に近づいているように感じます。また、全て民間委託にしてしまうと技術の継承どころではなくなるので、技術の根幹部分は職員が継承していかなければならないと考えています。

【委員】

職員の技術の継承を一番心配しています。経営の合理化で経費節減は重要であります。技術者の確保に配慮して頂くようお願いいたします。

【担当者】

下水道事業につきましては、委託化が進んでいますので、職員数 53 名が限界と考えています。経営診断表でも職員一人あたりの処理区域内人口が甲府市は 4,461 名、類似都市平均 3,900 名、全国平均では 3,400 名ですので、下水道事業に関して言えば、全国的に見ても職員数は少ない状況にあります。これ以上の経営効率化による職員数の減は難しいと考えています。

【座長】

平瀬浄水場の夜間の運転管理業務は、すべて民間委託という形態になりますと、突発事故等が起きた場合の責任の所在はどうなりますか。

【担当者】

運転管理業務のみの委託になっていますので、責任はすべて上下水道局にあります。非常時は職員による突発事故等待機体制がありますので、異常が発生した場合は職員連絡網で対応がとれます。突発事故等に係る業務は、全て職員で対応します。

【座長】

何回も繰り返えしますが、経営の効率化を図れば職員の人数を減らせなければならぬ。減らせば技術者の育成や技術レベルの管理が難しくなる。今回の資料では、ギリギリの職員数であることがよく解りました。

他に何かありますか。

【委員】

繰入金についてお伺いします。損益の収支自体は一般会計から入っていることによって収支バランスがとれているようですが、グラフ等を見ると会計の規模が減少しているということが解りますが、経営の健全性はそれを含めた形でのバランスが経費回収率として評価されているのですか。

平成 20 年度と平成 21 年度の収入の中に占める割合で、繰入金の金額が増えたり減ったりする変動がある要因としては、どのようなことがありますか。経営状況を考える上で、繰入金の変動により何か判断されるような状況はありますか。この辺りが不透明なように感じました。また、繰入金の動向で何か問題にすべきことはありますか。

【担当者】

繰入金の変動につきましては、経営診断表の損益収支の診断でありまして、審議会及び懇話会でも以前説明させて頂いたとおり、損益収支と建設改良の収支があります。施設の更新や新施設の建設については、資本的支出で収支の事業予算付けを行なっていますが、そちらの方のからみもありますので、あくまでも収益的収支については収支均衡バランスを保っています。資本的収支に繰入金を廻すように内部で調整をしていますので、平成20年度と平成21年度を比較しますと、このような差が出てきている状況にあります。繰入金につきましては、現在全体的に35億円程一般会計から繰入していますが、多い時で50億円程ありました。一般会計も財政が逼迫しているので、平成21年度より15.35%の使用料の改定をさせて頂きました。企業会計方式を適用していますので、受益者負担の原則に基づきまして使用している方から適正な使用料を頂くということでありまして、平成21年度使用料単価は約142円で汚水処理原価約146円ですけれど、類似都市、全国平均と比べますと、類似都市等では使用料単価で賄えていけない状況にあります。そういう意味では甲府市は健全な経営が出来ていると考えています。

【座長】

よろしいですか。

【委員】

だいたい解りました。経営状況をこれからどう判断していくのか。また、繰入金に頼っている部分があるので、経営的には好ましくないもので有収率をアップさせていくということになりますが、そのうえで経営改善の余地がどの位あるのか、数値的状况がよく解らなかったので、質問をさせて頂きました。

【座長】

簡単に「値上げ」というわけには行かないという状況の中で、精一杯の経営努力をされているということですね。

【担当者】

はい。先程もご説明したとおり、現在一般会計から 35 億円程繰入れしていますが、一般会計も逼迫している状況です。また特別会計へ税金を投入するということは、議会においても適切でないと言われているので、受益者負担の原則に従って企業の内部努力で繰入金に頼らない健全経営を引き続き行っていきます。

【座長】

結局、水道料も下水道料も適正であるという客観的数値がないため、高い安いは類似都市と比較して、どうかということしかないようですね。経営努力と言われますが、値上げすれば経営は楽になり、受益者は負担が増すということになりますから、現在の料金は妥当と考えていますか。

【担当者】

汚水処理コストと使用料単価を比較すると、回収率はほぼ 100%に近い状況ですので、類似都市平均と比較しても適正と考えています。類似都市平均では、使用料が低いために汚水処理コストを回収出来ていませんので、その部分では、甲府市は適正であると考えています。

【座長】

最後は「企業の内部努力の推進」ということになると思います。
他に細部にわたる指摘はありますか。

【委員】

有収率の問題でも取り上げられましたが、汚水処理している半分位が不明水ということになりますと料金収入に結び付きません。汚水処理にかなり大きいお金を賭けていることになります。そういう理解でよろしいですか。

【担当者】

大津の浄化センターで、それだけ経費が掛かっているということではなく、途中の管等の減価償却費もありますので、一概に有収率でどのくらい経費が変動するかは難しいところです。1 ポイントの変動で 700 万円位と

いう試算結果はありますが、有収率が仮に 100%になったとしても汚水処理経費が下がるということではありません。

【委員】

安価であれば良いのではなく、地域によっては高い料金体系の所もあるので、地域の方々が環境を良くするために、どの位の金額を支払っても良いのか様々だと思います。安いに越したことはないが低い料金体系を堅持する必要はあるのかと思います。

【座長】

力強い意見でありまして、事務局としては最終到達的でありがたい意見ですね。

【担当者】

審議会でも説明させて頂きましたが、県内の市町村の使用料が安いのは、下水道事業の場合、一般会計からの繰入金で賄っているからです。本来下水道事業は一般会計方式でも問題はありませんが、平成3年から企業会計を適用していますので、あえて甲府市は企業会計で行っています。また、近隣の市町村と比較すると使用料は高いですが、汚水処理コストは低くなっています。これは一般会計からの繰入金を抑えて、企業会計方式で行なっていることによるものです。説明不足で理解して頂けない所もあるうえに昨今の景気の状態では、なかなか使用料の料金改定は難しいと考えています。

【座長】

近隣が特別安価なのは、どこかにしわ寄せがいつているか無理をしているかで、甲府市がリーディングケースになれば近隣に対する指針になると考えますが。

【委員】

健全経営方針を推進している甲府市がちょっとでも料金改定を行なわないと近隣の市町村も料金改定が出来ないのです。なぜならば近隣市町村は廻りの市町村の状況を窺っているからです。近隣市町村の経営状況は酷い状態にも関わらず改善されない状況にあると思います。

【担当者】

最終的に料金改定をさせて頂く場合には、有収率や未接続世帯の%のポイントがある程度アップできる目途が立たないと、理解して頂けないと考えています。

【委員】

前回の懇話会で水道事業の課題としても挙げられましたが、地下水の利用による弊害が出てきているように見受けられます。今後は地下水を利用していく様な傾向があるので、水道下水道両面からも地下水の対処を真剣に考えて行かなければならないような印象を受けました。

【座長】

他に何かありますか。

【委員】

議論の中で経営状況等の説明を受けましたが、解りやすいコミュニケーションが重要と考えています。懇話会に参加させて頂いて、説明を受けて初めて解ることもありますので、市民の皆様には、なかなか伝わらないと思います。資料を拝見すると実数字で細かいところまで努力されているのは解りますが、市民の皆様に向けてストーリー性があり、一目で解るような端的な情報発信をして頂きたいという印象を受けました。

【座長】

上下水道局ホームページに懇話会の議事録を情報公開していますが、あまり膨大な文書資料だと誰も見る気はしないので、簡単に解りやすく実のある情報のみをホームページ公開してみてもはどうですかという意見でよろしいですか。

上下水道局は、そういう努力はしていますか。

【担当者】

平成22年度アンケート調査の報告をさせて頂いてありますが、水道料は蛇口をひねれば水がでるので、お金を支払わなければならない感覚はありますが、下水道使用料はトイレ等で流してしまったあとのことが見えな

いため、金額の割高感が強く、支払意識が薄いという結果がありました。上下水道局としての説明不足は啞めないと感じています。今後は市民の皆様に向けた解りやすい資料の配布や情報発信を検討していきたいと考えています。また、平成24年4月に定期的な水道だよりの他に特別号（リーフレット）を給水区域内世帯に配布しました。今後も継続していきたいと考えています。

【座長】

緻密な分析や緻密な経営努力をしていることが市民の皆様には伝われば、料金の負担をお願いする時、「やむを得ない」と理解して頂けるようお願いいたします。しかし、料金値上げで嬉しい人はいないので、更なる経営努力をお願いしたいと思います。

他に何かありますか。無いようですので、(1)「甲府市下水道事業の健全経営について」は、これで終了と致します。

【座長】

それでは(2)「その他」について、何かありますか。

無いようですので、以上で3懇話について終了と致します。

以 上